CSR委員会社外アドバイザーからのご意見

地球環境問題への積極的なチャレンジに期待します

たか いわお
髙 巖 氏
麗澤大学　経済学部長
大学院国際経済研究科 教授

東京都環境確保条例にもとづく排出量取引制度の第１計画期間が始まりました。条例で求められる温室効果ガスの削減は、三菱地所グループとして当然進めていくでしょうが、さらにその先をめざされることを強く期待しております。それは、貴社が、テナント事業者の協力をどのように引き出し、またどのような技術を駆使し、地球環境問題にチャレンジするかによって、東京都の（さらに言えば、日本の）他の事業者の行動が大きく変わってくるからです。自分たちがロール・モデルとなっていることの責任の重さをしっかり自覚し、行動してもらいたいというのが特に指摘したいことです。このほか、リスクマネジメントやコンプライアンスの実効性を高めるため、さまざまな改善活動を展開していますが、最近の上場会社の問題を見ていますと、会計報告（売上や利益の水増しなど）に関するミスや不正が増えており、しかも「内部統制が整備されている」とされる会社でも、これが起こっておりますので、万全を期す意味で、グループとして再点検されることを期待します。

CSR推進における「連帯の輪」の広がりが重要です

江上 節子 氏
武蔵大学
社会学部 教授

三菱地所グループにおけるCSR活動推進の特徴は、着実、粘り強さであると認識しています。自らの事業基盤の意味と資源を凝視しながら、何が社会的価値、倫理的価値の貢献につながるのかを問い詰めながら1歩1歩進めています。世論が情緒的に理念先行に傾斜することがあっても、とらわれることなく、社会全体の歩みとステークホルダーとの地道な対話に立脚して、CSR方針と施策を形作って来ました。今日、CSRのテーマは、企業だけで実現できるものではありません。経済活動は、複雑に絡み合い、消費者、取引先、働く人すべてが、CSRの連帯当事者とも考えられます。例えば、環境負荷低減などは、代表的な例と言えるでしょう。CSR推進の連帯の輪をどこまで粘り強く広げていくことができるかが、CSRの重要な柱です。経済価値と社会価値、倫理価値を統合するうえでの、判断基準として、創業以来の経営理念、「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」の三綱領は、現在も有効に機能していると解釈しています。

ご意見をいただいて

髙巖氏、江上節子氏には、CSR委員会の社外アドバイザーとして、当社グループに求められる課題について、毎回、具体的かつ的確なご意見、ご指摘をいただき、活発な議論が生まれ、新たな気づきにつながっています。地球環境問題への取り組みは、当社グループのCSR活動の重点テーマの一つでありますが、その他の課題とともに、様々なステークホルダーの皆様との「連帯の輪」を広げつつ、リスクマネジメントやコンプライアンスを核とした粘り強いCSR経営に積極的にチャレンジしてまいりたいと考えています。

三菱地所㈱
代表取締役専務執行役員（CSR 推進部担当）　杉山 博孝